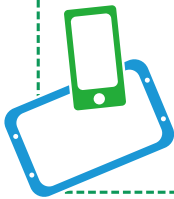


予算特別委員会の の討論（要旨）



令和7年予算特別委員会の
映像は区議会ホームページ
でご覧いただけます。



※予算特別委員会の審査結果は8面に掲載しています。

足立区議会 自由民主党

討論者



岡田 将和
委員

令和7年度予算案は「選ばれるには『ワケ』がある」新・足立区基本計画スタート」と名付け、区制100周年に向けて区の魅力を高め『区民一人ひとりの想いが叶うまち』の実現を目指した予算編成となった。

妊娠期から若者まで切れ目のない支援や災害対策、総合交通対策、千住宿開宿400年記念事業としての千住の魅力の区内外へのアピール等、特色ある予算案となっている。

物価高騰の長期化、中小企業の人手不足等、区民生活を取り巻く状況が厳しさを増している。持続可能な未来を見据え、現状と課題を踏まえた効果的な政策を推進し、多様なステークホルダーと共に区の魅力や個性を高めることが、課題を乗り越えていく為に不可欠である。

共産党提出の修正案は、修学旅行費や教材費の補助等が含まれているが、長期的かつ安定した区政運営を見据えたものではなく、賛成できるものではない。

なお、我が党委員が指摘した小・中学校教育費に対する保護者負担軽減補助金、スクールゾーンの見直し、劇団四季鑑賞事業継続を含む「こどもまんなか社会」の実現、Pay Pay商品券事業の実施期間検討、環境配慮型プチテラスの整備、地域と連携した千住宿開宿400年記念事業の推進、観光課設置、地域の稼働力を底上げする観光交流協会事業、自衛官の募集・啓発、多世代から愛される六町のまちづくり、公園を活かした魅力溢れる綾瀬・北綾瀬のまちづくり、区民の為に地下鉄8号線整備促進、東京女子医大への土地貸与有償化の検討や誘致目的の達成度を測るモニタリング会議の定期開催及び区民の不安感を払拭する為の区による丁寧な説明等、様々な提案及び要望事項については、本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映するよう強く要望する。

足立区議会 公明党

討論者



小泉 ひろし
委員

食品・エネルギー・原材料価格高騰が区民生活に一層の厳しさをもたらしている状況で、区は令和7年度に新たな基本計画を開始し、「住んでみたい」「訪れてみたい」まちとして、キャッチコピー「ワケあり区、足立区」を打ち出し、令和7年度予算のタイトルを「選ばれるには『ワケ』がある」とした。予算編成には、地震・水害等の大規模災害対策、物価高騰・人手不足等から区民や中小企業を守る対策、「こどもまんなか社会」の実現に向けた切れ目のない若年者支援等を中心に据えている。

予算案には、我が党が要望してきた帯状疱疹ワクチン定期接種補助、防犯対策物品購入費用助成の拡充、小規模事業者等経営改善補助金、農業生産者組織等育成事業費補助金の拡充、障がい者福祉手当の増額、生ごみ処理機・コンポスト化容器購入費補助の拡充、外国語指導助手（ALT）の派遣増等が盛り込まれている。

なお、共産党提出の修正案については、中長期的に区政運営を考慮した一貫性のある案とは言えず賛成できるものではない。

最後に、今回の予算特別委員会では我が党委員から指摘し要望した防犯まちづくりの推進、災害医療計画の立て直し、高齢者見守り施策の充実、孤立を防ぐ地域の形成、日暮里・舎人ライナー及びつくばエクスプレスの混雑解消対策、ごみ減量と食品ロス削減、太陽光発電設置助成、暑熱対策、ICTの活用教育推進、小・中学校における教材費・修学旅行費・制服代等の保護者負担の軽減、アビエランス支援、地下鉄サリン事件風化防止啓発の推進、東京女子医大・足立医療センター補助金交付の適性化、千住宿開宿400年記念事業等の様々な提案を真摯に受け止め、予算の執行と区政運営に反映することを強く要望する。

日本共産党 足立区議団

討論者



西の原 ゆま
委員

新年度予算は、障がい福祉手当の金額増額、飼い主のいない猫の不妊去勢手術補助額の大増増等、わが党も求めてきたものがあり、歓迎するものである。

しかし、1千800億円台で推移する全国で上位の基金残高は貯めこみすぎであり、区民のくらしに見合った積極的な活用こそ必要である。物価高騰で苦しむ多くの区民生活に正面から向き合った予算とは言えない。

エネルギー等の価格高騰に対する支援は、幅広い事業者を対象にするどころか、車の運転をしないと成り立たない業種への支援すら全く見向きもしない。人間の生存が脅かされる気候変動による環境問題に対し、区は環境フェアを廃止し復活も拒否し、環境プラザは他区と比べて大変見劣りのあるものになってしまった。防災備蓄倉庫がある限られたマンションだけを救い、他のマンションや一戸建て住宅の備蓄への具体的な支援は切り捨て拒否する姿勢である。121校で避難所での炊き出しを拒否する姿勢は、とても現実離れしている。本気で物価高騰に向き合い、気候変動による環境問題や災害への対策に取り組むよう強く求める。

修学旅行・移動教室や副教材費の無償化、奨学金の返済支援対象を広げること等は区が実施を表明しており、わが党の予算修正案が道理にかなった区民要望に込めるものであることを証明するものである。

国民健康保険特別会計は、今回初めて値下げであり賛成するが、子どもの均等割りの課題もあり、更なる区の奮闘を期待する。

介護保険特別会計や後期高齢者医療特別会計は大幅な値上げがないため賛成するが、高すぎる保険料により高齢者等の負担が増大しており、今後も区の奮闘を強く求める。何よりも区民のいのちとくらしを守る施策を最優先することを強く求める。

是々非々の会 （維新・参政・無所属）

討論者



へんみ 圭二
委員

令和7年度予算には、高校生応援支援金の事業見直し、防災士資格助成の要件緩和、私立幼稚園預かり保育の助成額拡充等、会派として要望してきた施策も盛り込まれており、一定の評価をする。

足立の花火が5月開催となるが、学びピアを活用して有料席を増やすなど、更なる自主財源の確保を求める。

レシートde商品券事業については、非効率で不正行為を防ぎきれない不完全な事業であり、血税を使っているという意識を強く持つて事業展開すべきと指摘する。

東京女子医大の補助金審査会の議事録について、約束していた議事録の公開を忘れていたことは言語道断である。ようやく公開された議事録は不明瞭である上、音声データは消去して再検証できないなど、一人法に対して85億円もの補助金を投入することの重大性を認識していない区の姿勢は明らかである。議事録や審議会・審査会の在り方について見直しを求める。

地下鉄サリン事件風化防止啓発推進条例は丁寧な説明もなく提案され、また、今定例会では議案の撤回もあった。議案は軽々しく提案するものではなく、軽々しく撤回するものでもないため、猛省を求める。

共産党提案の修正案は、子育て支援策など賛同できる部分もあるが、区独自の学力テストの中止や生きがい奨励金の復活等について見解が異なるため賛成できない。

本委員会では、お囃子への支援、保護猫譲渡会の拡充、綾瀬駅東口のビル風対策、バス停屋根のミスト化、高架下の屋根設置と柵撤去など綾瀬駅西口のウォークアブルなまちづくり、投票済証の発行や期日前投票所の設置、主権者教育の推進等を提案した。筋道や道理を問うことのない区政運営を望み、討論とする。

都民ファースト・ 無所属の会

討論者



川村 みこと
委員

区は、令和7年度の予算のタイトルを「選ばれるには『ワケ』がある」とした。子育て、福祉、防犯・防災、経済、環境等、幅広く網羅しており、区民には、選んで良かった、区外の人にも足立区を選んでもらえる予算編成となっており評価する。

予算規模は過去最大を更新し、11年連続の増となったが、既存事業の見直しや廃止を行い、物価高や人件費上昇を鑑みると適切な予算編成であると認識している。

一方で、日本共産党足立区議団から提出された修正案については、長期で安定的な区政運営を見据えたものとは言えず、賛成できるものではない。

なお、本委員会が質疑をした歳入増加に向けた取り組み、行政サービス向上、プレーパークの推進、不登校支援、子ども家庭センターの早期設置、子育て仲間づくり補助金の拡充、子どもと本の繋がり強化等による子育て環境の充実、学校選択のオンライン化、学童保育や保育園申し込みにおける利便性向上、子育てサロンの利便性向上など保護者負担の軽減、0歳児定員見合いの補助期間延長、保育士の職場環境改善及び福利厚生への充実、部活動の外部委託及び地域移行等による労働環境の改善、マンション耐震化促進や防災訓練の更なる充実、無電柱化、災害時協定の拡大等による防災力向上、公園の塗装見直しによる更なる治安向上、足立の花火や二十歳の集いなど各イベントの更なる充実、空き家対策、終活支援、日暮里・舎人ライナーの混雑対策、綾瀬・北綾瀬エリアの更なる活性化等の提案・要望を区政運営に反映するよう要望する。

最後に、「より多くの方に選んでいただける、選んで良かったと思っていただける足立区」を目指し、今後も区民のために粉砕身活動していくことを誓い討論とする。